

統 合 分 野
看護の統合と実践

看護の統合と実践のねらい

「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容である。卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容を基盤に、臨床で実際に活用していくことができる内容として実践的に学習する。

具体的には、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する、看護管理・看護研究の基礎的能力を身につける、医療安全の基礎的知識を修得する、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる、等の看護実践力を高めるための内容について学習する。

「看護管理と研究」

看護の基礎教育では、チームの一員としての看護師の役割を理解し、行動できることが求められる。そのためには、看護師がチームとする病院や看護部門について学び、医療・看護がめざすものを踏まえて、日常の看護を実践する考え方を理解しなければならない。したがって、病院や看護の理念に合わせ、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、“看護サービスの管理”について理解を深める学習をする。さらに、科学的な看護を実践するために必要な看護研究について学び、看護研究の基礎と研究的態度を育成するためにケーススタディを行う。

「災害看護」

さまざまな災害における看護師としての役割を担うために必要な災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術について学習する。合わせて、看護の国際貢献についての基礎的な理解を深めるための学習をする。

「診療補助技術における安全」

医療・看護におけるアクシデントでは、患者の生命に直接影響する診療の補助業務に関することが多い。そのため、臨床の場で求められる一定水準の診療補助技術を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。また、専門職としての責任感と倫理観の視点での安全管理の重要性を意識し、実践に繋げる。

演習では、事例を通して、ハイリスク環境下での看護を学習する。

「臨床看護の実践」

医療技術の高度化が進む中、看護に求められる診療補助技術も高度化している。高度医療を受ける患者は、ハイリスク下にあり、さらに看護師についても、ハイリスク環境下にある。しかし、臨床のようなハイリスク環境下での学習には限界があり、新人看護師が基礎教育とのギャップで離職している状況も少なくないため、基礎教育期間に、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を身につけることが望ましい。そこで、臨床の場で求められる看護実践を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。

校内実習では、看護学実習で習得が困難な状況（①不測の事態への対応、②複数の課題への対応、③優先順位の判断）を設定し、事例を通して学習する。看護技術の学習ステップを三段階に分け、ステップⅠを前提学習とし、ステップⅢ迄を経験学習として行う。

ステップⅠ：単独の看護技術を患者の要件を最小にした条件下で、原則に基づいて正確に実施できる。

ステップⅡ：複数の看護技術を組み合わせ、時間経過の中で、緊急・突発でない複数の患者に対して適切に実施できる。

ステップⅢ：複数の看護技術を複数の患者に対して、緊急・突発の要件下で、状況判断と対応ができる。

「看護の統合実習」

専門分野Ⅱ、在宅看護論の実習を学んだ最終段階で、既習の知識・技術・態度を統合させて学び、看護実践力を高めることを目指す。実務に即した実習として一勤務帯を通じた実習や夜間実習を行うことにより、看護チームの一員であることを認識し、看護リーダーの役割、複数患者の看護の優先度の考え方や時間管理、日勤帯以外の看護師の役割や患者の状態を理解するための知識・技術・態度を習得する。さらに、将来の看護師像を確立し、自身の課題を明確にする。

看護の統合と実践

【目的】

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる力を養う。

【目標】

- 1 組織の中での看護師の役割を理解し、看護管理と看護研究の基礎的知識を習得する。
- 2 災害医療・災害看護についての基礎知識を習得する。
- 3 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。
- 4 安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な診療の補助技術が実施できる。
- 5 複合課題を通して、知識・技術の統合と総合的な判断を学び、臨床実践能力を養う。

【構成および計画】

<講義>

科 目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
看護管理と研究	1	30			1 (30)
災害看護	1	15			1 (15)
診療の補助技術における安全	1	30			1 (30)
臨床看護の実践	1	15			1 (15)
合 計	4	90			4 (90)

<臨地実習>

科 目	実 習 内 容	単 位 (時 間)	時 期
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合した実務に即した実習	2 (90)	3年次
合 計		2単位 (90時間)	

科目 看護管理と研究 1単位 (30時間)

科目目標：1 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する
2 看護研究の基礎知識を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
組織の中の看護	6	組織における看護管理について理解できる	1 看護管理 1) 看護管理の定義 2) 看護管理の対象と管理過程 2 病院における看護組織 1) 病院の目的、理念と組織 2) 看護部門の組織と看護職員の管理 3) 診療報酬制度と看護サービスの評価 (1) 看護基準 4) 院内委員会と看護の役割 5) 看護の質保証 (1) 継続教育 (2) キャリア開発 6) 看護行政 7) 安全管理 (1) 看護業務の特性と事故 (2) 感染予防 (3) 事故発生時の対応と事故の記録 (4) 看護職員の労働安全衛生 8) 電子カルテとセキュリティ	看護師
看護研究の基礎	6	看護研究の意義と方法を理解できる	1 研究とは 1) 研究の意義・必要性・種類 2 看護における研究 1) 看護における研究の意義 2) 看護研究のプロセス 3) 文献検索	専任教員
ケーススタディ	16⑫	実践した看護を振り返りケーススタディとしてまとめることができる	1 ケーススタディとは 2 論文（ケーススタディ）の作成 1) テーマの決定 2) 文献検索 3) 研究計画書 4) 論文 5) 抄録 6) 発表原稿 7) 資料 3 発表	
まとめ・試験	2			

科目 災害看護 1単位 (15時間)

科目目標：災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
災害看護の基礎	4	災害医療・災害看護の基礎的知識を理解できる	1 災害の歴史と災害看護 2 災害と災害医療 3 災害医療サイクル 4 災害の種類と被害の特徴 5 災害と看護の役割 6 災害医療対策 7 災害種別の疾患の特徴 1) 災害の分類 2) 災害の種類と疾病構造 3) 災害サイクル 8 災害医療の基本 1) 災害時の体系的アプローチ方法 CSCATTT 9 災害看護の定義と特徴 10 被災者・救援者の心理とケア (PTSR：外傷性ストレス反応、ASD：急性ストレス障害、PTSD：外傷性ストレス障害) *CPR は、校内実習の前に上級救命講習で実施	看護師
災害各期の看護活動	8④	災害各期の看護を理解できる	1 災害各期の看護 1) 超急性期 2) 急性期 3) 慢性期 4) 静穏期 (前兆期含む) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 校内実習〈4H〉 トリアージ、搬送、包帯法 </div>	
災害時における看護の国際協力	2	災害時における看護の国際協力を理解できる	1 災害時の国際協力のしくみと国際救援看護活動 1) 看護の国際協力 2) 多文化 3) 人的・物的支援	
試験	1			

科目 診療の補助技術における安全 1単位 (30時間)

科目目標：1 医療システムの中での安全を図り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得する
 2 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を養う

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
診療の補助技術のエラーと危険性への認識	6	1 医療安全について理解できる 2 診療の補助技術の危険要因を認識し、事故防止の方法が理解できる	1 医療安全とは 2 ヒューマンエラー 3 医療事故と看護事故の分析と活用 1 注射業務における事故防止 1)注射業務プロセスからみた事故防止 2)薬剤からみた事故防止 (1)類似性 (2)ハイリスク薬剤 (3)救急カートの薬品・機材 (4)輸血時の事故防止 2 検査に伴う事故防止 3 情報伝達と共有・管理 4 事故発生時の対処方法	専任教員
ハイリスク状況における事故防止	10⑥	ハイリスク状況下で、安全に注射業務が実施できる	1 ハイリスク状況下での事故防止 1) エラーを誘発する状況 (1)口頭指示 (2)作業中断 (3)多重課題 2) ハイリスク状況下での注射業務の実施 (1)作業中断 (2)タイムプレッシャー (3)事故防止対策 2 安全で確実な注射業務の実施方法 3 注射業務実施中のトラブルと対処方法 校内実習 (6H) ・注射処方箋の読み取り・指示確認 (2H) ・ハイリスク状況での注射薬の準備と管理 (4H)	
安全で確実な輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	8④	1 チューブ類挿入中の危険要因と事故防止が理解できる	1 チューブ・ラインの種類と挿入目的 2 チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 1)外れ 2)閉塞 3)抜去 4)切断	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
安全で確実な 採血の実施	4②	安全で確実な輸液 ポンプ・シリンジポ ンプの取り扱いが理 解できる 安全で確実な採血が 実施できる	<p>5)不適切な圧力</p> <p>3 チューブ・ラインを挿入している人の事 故防止</p> <p>1 輸液ポンプ・シリンジポンプの正しい 取り扱い</p> <p>1) 輸液セット・三方活栓の接続</p> <p>2) 三方活栓の取り扱い</p> <p>3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの設定</p> <p>4) ポンプ使用時の事故防止</p> <p>(1)フリーフロー</p> <p>(2) サイフォニング現象</p> <p>5) 輸液ポンプ・シリンジポンプのアラー ムの対処方法</p> <div data-bbox="754 824 1217 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>校内実習 (4H)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸液ポンプ・シリンジポンプの取 り扱い ・三方活栓の取り扱い ・チューブ類を挿入している人の 看護 </div> <p>1 採血技術</p> <p>1)採血部位の選択</p> <p>2)採血時のリスクと合併症</p> <p>2 医療廃棄物の取り扱いの実際</p> <p>3 針刺し事故防止と事故発生時の対処</p> <div data-bbox="754 1339 1217 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>校内実習 (2H)</p> <p>採血の実際 (学生同士で実施)</p> </div>	
まとめ・試験	2			

科目 臨床看護の実践 1単位 (15時間)

科目目標：複数患者への援助を通して、総合的な状況判断や対応の基本を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
複数患者の援助計画立案	4	1 臨床看護実践の特徴を理解し、複数患者の援助計画が立案できる	1 臨床看護実践の特徴 1) 他者との連絡・調整 2) 複数の課題に対する優先順位の決定 3) 流動的環境における判断 2 援助の優先順位を踏まえた二人の患者の援助計画立案 1) リスクアセスメント 2) 日常生活の援助・診療の補助技術 3) 一日の患者のスケジュール 3 二人の患者の情報収集と状況判断	専任教員
複数患者の看護実践と状況への対応	10⑧	1 計画に基づき、二人の患者への援助を時間経過の中で適切に実施できる 2 多重課題に対して原則に基づいて判断し、二人の患者に必要な援助が実施できる	1 二人の患者への援助の実施 1) 安全・安楽の確保 2) 自立度に合わせた援助の実施 3) 援助の効率性 4) タイムマネジメント 2 自己の実践能力に応じた対処方法決定 3 チームメンバーとの連携 1 多重課題への対処 1) 予期しない患者の反応 2) 突発的な事態 3) 時間の切迫 4) I-SBAR での報告 2 評価・修正 1) 計画の妥当性 2) 多重課題への対応 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">校内実習 (8H) ・複数患者の看護実践と状況対応</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">〈事例の設定〉 ・成人あるいは老年期の患者2名 ・急性症状を呈する患者及びセルフケア不足の患者 ・診療の補助技術と日常生活援助技術との組み合わせ ・不測の事態への対応場面 ・多重課題の対応場面 ・援助の優先順位の判断場面</div>	
試験	1			

